



上/2019年のG20大阪サミットで提供されたワインの一つが「鶴沼ゲヴェルツトラミネール2016」。ゲヴェルツトラミネールという品種は、厳しい気候条件である北海道の気候風土にマッチし、日本国内では鶴沼ワイナリーで最も多く安定して栽培されています。

左/「ゲヴェルツトラミネール」が根付はじめた1980年当時は、すべてが試行錯誤の連続で、不可能から可能に果敢に挑戦し続けた結果のうえに現在がある。」と語る齋藤農場長。

空知、そして北海道の ワイン振興に貢献

北海道ワイン(株)の社是に「北海道ワインは北海道に必要な会社となります。感謝と誠実を心に。」という一文があります。この言葉に感銘を受けた齋藤農場長は、「社是を信条に自分の会社だけが良いということではなく、北海道にあって良かったという会社になりたい。」という想いの元、空知はもとより北海道のワイン振興に積極的に取り組んでいます。

例えば、既に空知管内でワイン造りに携わっている方々の栽培技術などの底上げ及びコミュニティの構築を目的とした事業「空知ワインアカデミー」では、YAMAZAKI WINEERYの山崎太地さんとともに講師を担当し、空知の生産者を牽引しています。



ブドウと共に100年、200年と歴史をつなぎます

鶴沼ワイナリー

Tsurunuma Winery

鶴

沼ワイナリーは、北海道小樽市に本社を構える北海道ワイン(株)の直轄農場です。初代社長の齋村彰禧氏がブドウ栽培の適地を探る中、浦臼町を訪れた際、石狩川沿いの丘陵地の風景がドイツのライン川沿いのブドウ畑と重なり、1971年、この鶴沼に11haの土地を取得したことがはじまりです。約50年の時を経て総敷地面積447haの日本で最も広いブドウ畑となり、常時40名のスタッフが40を超える品種を育て、北海道ワインで醸造しています。

2代目の農場長、齋藤浩司さんは、「今、この豊かな土で栽培できるのは、先輩方が土づくりに心血を注いでくれたお陰。試験品種を輸入したり、土壌や気象などのデータを蓄積するなど、ブドウと共にチャレンジすることが、歴史を繋ぐための礎となつてほしい。」と語ります。

広大な土地があるからこそ、品種の個性を生かせる場所でブドウを育てられ、白ははつらつとした酸を、赤は果実味を感じるワインに仕上げています。

畑の見学 SHOP 試飲

WINERY DATA

- 主な栽培品種：ゲヴェルツトラミネール、ミュラー・トゥルガウ、ピノ・ブラン(ヴァイスブルグンダー)、ケルナー、ミュスカ、シャルドネ、パカス、リースリング、ピノ・グリ、ツヴァイゲルト、レンベルガー、ロンド、MH・AM、ピノ・ノワール、トロリンガー、他
- 生産本数：約250万本/年(鶴沼シリーズ約5万本/年)
- 栽培面積：447ha(総面積)114ha(栽培・管理面積)
- ファーストヴィンテージ：1979年
- ラインナップ：鶴沼ゲヴェルツトラミネール/720ml
鶴沼ピノ・ブラン/720ml、鶴沼ロンド/720ml
- 購入方法：ワイナリー直営SHOP・自社ウェブサイト・電話・e-mail・FAX



有限会社 鶴沼ワイナリー 北海道ワイン(株)直轄農場

☑ 北海道樺戸郡浦臼町字於札内428-17
☑ 9:00~16:00
(冬期は営業時間に変動有)
☎ 0125-68-2646
☎ 0125-68-2086
✉ otoiwase@hokkaidowine.com
🌐 https://www.hokkaidowine.com/

<鶴沼ミュラー・トゥルガウ/720ml>